

065 ベルゼブル論争 Jesus and Beelzebul

ルカによる福音書 8：1～3、マタイによる福音書 12：22～32、マルコによる福音書 3：20～30、ルカによる福音書 11：14～23、12：10

►ルカによる福音書 8：1～3

01 すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。

02 悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいた（ガリラヤ湖岸の）マグダラ（という小さな町の出身）の女と呼ばれるマリア、

03 ヘロデ（→ガリラヤの領主ヘロデ・アンティパス、在位：BC4～AD39）の家令（=執事一家の事務や会計管理、他の雇い人を監督する）クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた（→女性たちがユダヤ教の教師を経済的に援助することはしばしばあった）。

→ヨハナは、他にルカ 24：10 に、またスサンナはここにしか登場しない。

►マルコによる福音書 3：20～30

20 イエスが（シモン・ペトロの）家に帰られると、群衆がまた集まって来て、一同は食事をする暇もないほどであった。

21 身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は（宗教に熱狂的になり過ぎて、精神的なバランスを失い）気が変になっている」と言われていたからである。

22（ユダヤ教の礼拝の中心地）エルサレムから下って来た律法学者たち（→サンヘドリンからイエスがメシアであるか否かを調査し、イエスを拒否するために派遣されたファリサイ派の代表団）も、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」と言っていた。

23 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。

24 国が内輪で争えば、その国は成り立たない。25 家が内輪で争えば、その家は成り立たない。

26 同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。

27 また、まず強い人を縛り上げなければ、だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。

28 はっきり言っておく。人の子（=人間）らが犯す罪やどんな冒瀆の言葉も、すべて赦される。

→人が神に背き、神の命令に従わないときに、罪と見なされる。

29 しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」

→聖霊を冒瀆する罪は、完全に神に背くことである。神を拒むと、神の赦しも拒むことになる（マルコ 1：8、10、12、ルカ 12：10）。

30 イエスがこう言われたのは、「彼は汚れた霊に取りつかれている」と人々が言っていたからである。

→汚れた霊すなわち悪霊はサタンに仕えていると考えられていた。当時、悪霊や悪魔が様々な病気や心の病の原因であると見なされていた。

►リビング・バイブル

20 イエスが泊まっていた家に戻られると、群衆がまた集まって来ました。まもなく家の中は人でいっぱいになりました、みなは食事をする暇もないほどでした。

21 イエスのことを身内の者たちが聞き、家に連れ戻そうとしました。「あの男は気がおかしくなっている」と言う人たちがいたからです。だれがイエスの兄弟、姉妹か

22 また、エルサレムから來ていたユダヤ教の教師たちは、こんなふうにうわさしました。「やつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているのだ。だから、手下の悪霊どもがやつの言うことを聞いて、おとなしく引き下がるのだ。」

23 イエスは、そんなことを言う人々をそばに呼び、だれもがわかるように、たとえを使って話されました。「どうして、サタンがサタンを追い出せるでしょうか。

24 内部で分かれ争っている国は、結局自滅してしまいます。25 争い事や不和が絶えない家庭は、崩壊するだけです。

26 サタンの場合も全く同じことです。内部で争っていたら、何もできないばかりか、生き残ることさえできません。

27 強い人の家に押し入って、その財産を盗み出すには、まずその強い人を縛り上げなければならぬでしょう。悪霊を追い出すには、まずサタンを縛り上げなければならぬのです。

28 これは大切なことですから、はっきり言います。人が犯す罪は、どんな罪でも赦してもらえます。たとえ、わたしの父を汚すことばでも。

29 しかし、聖霊を汚す罪だけは、決して赦されません。それは永遠の罪なのです。」

30 こう言われたのは、彼らが、イエスの奇跡を聖霊の力によるものだと認めず、サタンの力によるのだと言っていたからです。

►マタイによる福音書 12：22～32

22 そのとき、（誰が連れて来たかは分からぬが）悪霊に取りつかれて目が見えず口の利けない人が、イエスのところに連れられて来て、イエスがいやされると、ものが言え、目が見えるようになった。

23 群衆は皆驚いて、「この人はダビデの子（→メシア的称号）ではないだろうか Could this be the Son of David? (NIV, NKJV)」と言った。

→イスラエルの預言者の多くはメシアがダビデ王の家系から出ると語り、このため、メシアは「ダビデの子」とも呼ばれた。

→旧約聖書で悪霊を追い出したのは、ダビデだけである。

神の靈がサウルを襲うたびに、ダビデが傍らで豎琴を奏でると、サウルは心が安まって気分が良くなり、悪霊は彼を離れた（サムエル記上 16：23）。

24 しかし、ファリサイ派の人々はこれを聞き、「悪霊の頭ベルゼブルの力によらなければ、この者は悪霊を追い出せはしない」と言った。

→ベルゼブルの名称はカナン人の神、力の主を意味するバアルの名、バアルの君に由来する。ヘブライ人はその名を「蠅の王」という意味のベルゼバブと呼んで皮肉った（マタイ 9：34）。悪霊の頭（かしら）はサタン（悪魔、神の敵対者、神の民に敵対する勢力の指導者）や悪魔として知られていた。

※バアル・ゼブール：住居の王、家長、宮殿の主。古代カナン南部にいた民、ペリシテ人の町エクロンの偶像神の名。ユダヤ人たちは、「バアル・ゼブブ」「ベルセブブ Beelzebub」（蠅の主、列王記 1：3、6、16）とバカにした。新約では、「悪魔のかしら」（サタン）を指す。

25 イエスは、彼らの考え方を見抜いて言われた。

「どんな国でも内輪で争えば、荒れ果ててしまい、どんな町でも家でも、内輪で争えば成り立って行かない。26 サタンがサタンを追い出せば、それは内輪もめだ。そんなふうでは、どうしてその国が成り立つて行くだろうか。27 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたち（ファリサイ派）の仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。28 しかし、わたしが神の靈で悪霊を追い出しているのであれば、神の國はあなたたちのところに来ているのだ。29 また、まず強い人（→サタン）を縛り上げなければ、どうしてその家に押し入って、家財道具を奪い取る（→サタンの支配下になる）ことができるだろうか。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。30 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。31 だから、言っておく。人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦されるが、“靈”に対する冒瀆は赦されない。32 人の子に言い逆らう者は赦される。しかし、聖霊に言い逆らう者は、この世でも（次に来る）後の世（→メシア的王国）でも赦されることがない。」

►リビング・バイブル

22 その時、悪霊につかれて、目も見えず、口もきけない人が連れて来られたので、イエスは彼の目を開け、口もきけるようになさいました。

23 これを見た人々は驚いて、「やはり、この人がメシヤ（救い主）ではないだろうか」と言い合いました。

24 しかし、このことを耳にしたパリサイ人たちは、「イエスが悪霊を追い出せるのは、自分が悪霊の王ベルゼブル（サタン）だからだ」とうそぶきました。

25 イエスは彼らの考えを見抜き、こう言われました。「内紛の絶えない国は、結局滅びます。町でも家庭でも、分裂していくは長続きしません。 26 もしサタンがサタンを追い出すなら、自分で自分と戦い、自分の国を破壊することになるのです。 27 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うが、あなたがたの仲間も、悪霊を追い出しているではありませんか。彼らは、いったい何の力で追い出しているのですか。あなたがたの非難があたっているかどうか、彼らに答えてもらいましょう。 28 ところで、もしわたしが神の靈によって悪霊を追い出しているとしたら、どうでしょう。神の国はもう、あなたがたのところに来ているのです。 29 強い者の家に押し入って、物を盗み出すにはまず、その強い者を縛り上げなければなりません。悪霊も同じことです。まずサタンを縛り上げなければ、悪霊を追い出せるわけがありません。 30 わたしに味方しない者はみな、わたしの敵なのです。31-32 だから、あなたがたに言っておきます。どんなにわたしを悪く言おうと、またどんな罪を犯そうと、神は赦してくださいます。ただ一つ、聖霊を汚すことだけは例外です。この罪ばかりは、いつの世でも絶対に赦されることはありません。

ファリサイ派の人たちは、イエスによる悪霊の追い出しを、ベルゼブル（サタン）の力によるものと解釈しました。これは、イエスに対する最大の侮辱であり、冒涜でした。

ファリサイ派の人たちは、このように解釈することによって、イエスのメシア性を否定しました。
この時のイエスとファリサイ派の人たちとの論争を「ベルゼブル論争」と呼んでいます。

【参考】ゼカリヤ書 12:10

わたしはダビデの家とエルサレムの住民に、憐れみと祈りの靈を注ぐ。彼らは、彼ら自らが刺し貫いた者であるわたしを見つめ、独り子を失ったように嘆き、初子の死を悲しむように悲しむ。